

# 信頼と共感でつなぐ「ふるさと松戸、づくり



## 地(知)の拠点シンポジウム「地域」とつながる「学び」を開催

2月13日に聖徳大学香順メディアホールで「地域とつながる学び」をテーマに「地(知)の拠点シンポジウム」を開催しました。全国の大学関係者など113名の出席者を前に、教員発表、学生発表、パネルディスカッション等、地域貢献をめぐる短期大学部の多彩な取組が披露されました。

基調講演では、「大学が地域貢献する意義」をテーマに納谷廣美氏(大学基準協会特別顧問)にご登壇いただきました。

引続いて総合文化学科の荻輪裕子教授と保育科の藪中征代教授がそれぞれ、これまでの3年間にわたり取組んできた地域貢献の授業全般について説明。さらに、総合文化学科2年、保育科(第一部)2年の学生6名が、地域貢献の授業で行った具体的な取組について体験を交えながら発表しました。

パネルディスカッションでは、松戸市総合政策部政策推進課課長 白井宏之氏、松戸商工会議所専務理事 薄葉博司氏、学校法人松本学園しんまつど幼稚園園長 寺田美子氏、総合文化学科2年の佐藤はつかさん、保育科(第一部)2年の岸田真子さんがパネラーとなり、約一時間にわたり、地域貢献の意義や教育的効果などについて熱のこもった議論が交わされました。

このシンポジウムは、本事業が3年目を迎え補助期間の中間時点になったこと、さらに聖徳大学短期大学部が創立50周年を迎えたことから、これまでの成果の発信と今後の取組の発展やさらなる地域との結びつきを期待して開催したものです。



事例発表：添田さん(総合文化学科)



事例発表：森山さん(総合文化学科)



事例発表：平山さん・高橋さん(保育科)



質問に答える学生パネラー

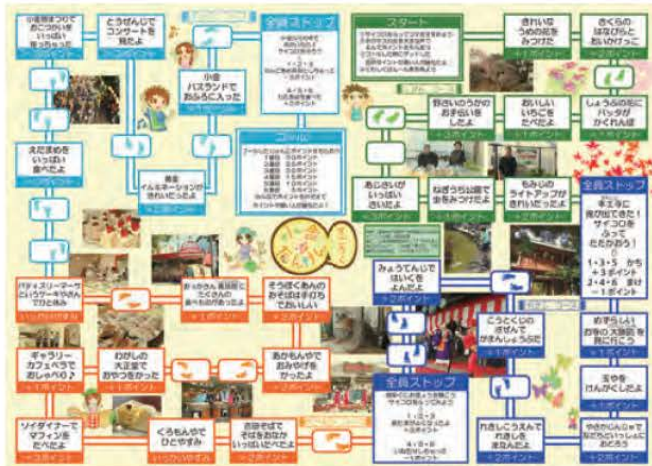


事例発表：篠塚さん・田谷さん(保育科)



# 専門性を活かした地域貢献活動

総合文化学科では、授業の中で、専門性を活かしたさまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。  
平成26～27年度にかけて、千葉県松戸市の地域活性化に関わる以下のような取組を実践しました。



◇小金探検すごろくセットの制作  
(デザイン・インテリア、ファッション、観光・ホテルプラン)



◇松戸市子育て支援  
ポスター制作(養護・保健プラン)



◇特産物のレシピ集制作  
(文芸・編集、図書館  
司書プラン)



◇松戸まつり和カフェの運営(製菓プラン)

## 地域社会の活性化につながる多彩な貢献活動

松戸のおすすめ店舗を紹介するスマホアプリの制作 (ITコミュニケーションプラン)、小金あじさいねぎを使ったひとくちマフィンの開発と販売 (フード・調理、幼児栄養プラン)、地元の自治会との交流 (図書館司書プラン) などの活動も行いました。これらの活動が、地域社会の活性化や地域の方々の暮らしに役立つことを願っています。

## 松戸まつり・小金宿ぶらり市のお手伝い

地域のお祭りで、子どもの遊びコーナーでの支援や特産品の販売などを担当しました。ボール投げや輪投げなど、子どもたちは真剣そのもの。思わず笑顔でハイタッチ! たくさんの元気が飛びかっていました。



地域の祭りなどに参加することによりコミュニケーション力が育まれました。

## こどもかるたや絵本の制作

「日本の文化」の授業では、地域を題材にした「こどもかるた」や「絵本」を作りました。遊びながら、地域の歴史や名士等を学ぶことができます。



学生が作った絵本  
絵札、読み札とも  
学生が制作

## ラーメン・マフィンの開発

フード・調理、幼児栄養プランの学生が、地域の特産あじさいねぎ、矢切ねぎなどを使ったラーメンやマフィンを商品化しました。女性に優しい味わいとなっています。



学生が作ったひとくちマフィン

和食の良さを  
活かしたラーメン

## 地域情報誌「彩」・ニュースレターを制作

DTP演習の授業では地域の魅力を紹介する各種の情報誌を作っています。



地域情報誌「彩」とニュースレター(右)



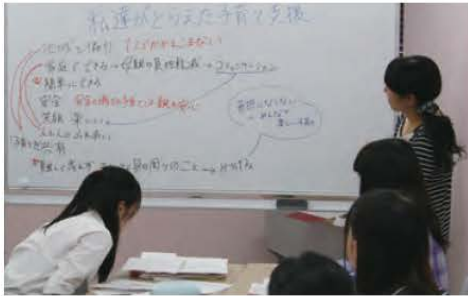
# 私たちにできる子育て支援

保育科では、保育所や幼稚園、子育て支援施設と連携して、授業の中で地域貢献活動に取り組んでいます。保育者としての専門的スキルや態度を身につけた地域貢献活動のエキスパートを目指し、以下の取組を実践しました。

## 授業風景と学びのプロセス

10名程度のコミュニティを編成し、学生の主体的な学びを推進しています。本授業における学びのプロセスを図1に示しました。アクティブラーニングの手法を用いた、子育て支援に関する幅広い学修を実施しています。

【コミュニティでのグループ討議】



ホワイトボードを使い、活動内容について活発な意見交換をする学生たち

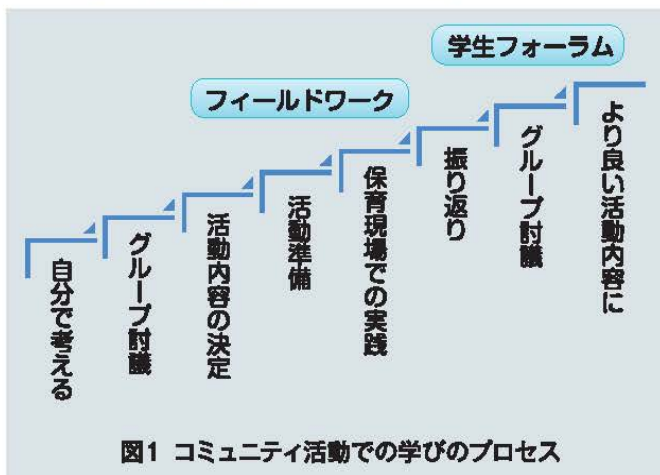


図1 コミュニティ活動での学びのプロセス

## 学生フォーラム

活動のまとめとして、12月に学生フォーラムを実施しています。共通のテーマは「私たちにできる子育て支援」、サブテーマは、「子どもの成長を保護者に伝える」「子育て広場を利用する保護者の声から考える子育て支援とは」などです。学生の発表は、「何をした」という活動報告から、「自分たちの活動がどのように子育て支援につながったか」という視点を明確にした発表内容になりました。



発表を聞いて質問する学生と分かりやすく伝えようとする学生

## フィールドワーク事例紹介

保育所、幼稚園、子育て支援施設と連携して、子育て支援活動を実践しています。

【幼稚園でのフィールドワーク】



学生手作りの輪投げで遊ぶ子どもと、子どもの気持ちに寄り添ってかわる学生

【保育園でのフィールドワーク】



「ばいさんをやっつけよう!」学生の劇を真剣にみる子どもたち

## 松戸子育てカレッジでの活動

聖徳大学10号館3階に地域の子育て支援の拠点として、大学の専門的知識を活かした「松戸子育てカレッジ」が2015年9月にオープンしました。おはなし会やコンサートを学生たちが企画し、親子の交流を応援し、学生の実践力やコミュニケーション力の育成・向上を図っています。

【学生企画のコンサート】



子育て広場 おやこで「ゆるりん」で、歌に合わせて子どもたちと一緒に鈴を鳴らす学生

【おはなし会】



聖徳大学子ども図書館で、パネルシアターを触って遊ぶ子どもたちと学生



## 授業効果

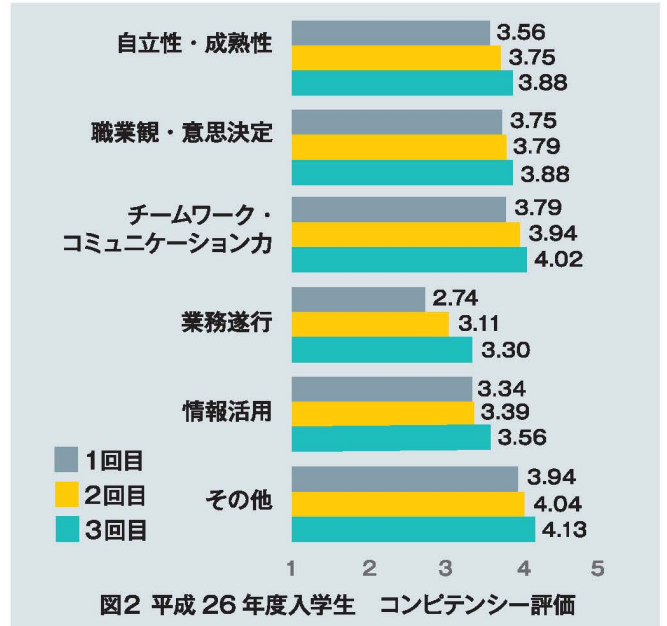
# 地域貢献科目受講を通じたコンピテンシー(仕事力)の高まり

自らのコンピテンシーを自己評価し、自律的にその力を向上させることを進めてきました。

対象学生：「社会貢献の理論と実践」「地域貢献活動の実践」を履修している短期大学部2年生311名。

調査項目：コンピテンシー(仕事力)を測定する「自立性・成熟性」10項目、「職業観・意思決定」10項目、「チームワーク・コミュニケーション力」10項目、「業務遂行」10項目、「情報活用」5項目、「その他」5項目の6カテゴリーから構成されている50項目。

結果:1回目:授業開始時、2回目:「社会貢献の理論と実践」授業終了時、3回目:「地域貢献活動の実践」授業終了時の学生による自己評価を図2に示しました。6つのカテゴリー別に3回のコンピテンシーの自己評価を分析した結果、6つのカテゴリーすべてにおいて授業開始時よりも授業終了時の方が高くなり(1回目<2回目<3回目)、フィールドワークなどの経験を通じて学生の意識が変化しました。コンピテンシーの向上は、机上ではなく、実体験の中で活用して修得されるものであることがわかりました。今後は、自己理解にとどまらず、より高度なコンピテンシーを発揮する機会へと導いていくことが必要であると考えています。



## 地域で活躍できる人材を育成しています。

### 保育科

第一部(昼間・2年制)  
第二部(夜間・3年制)

実践的指導力を身につけた  
幼稚園教諭・保育士を養成しています。

#### ●コース紹介

幼稚園教諭コース

保育士コース

#### 80年の歴史と伝統が誇る就職実績!

キャリア教育やプロのキャリアカウンセラーによる就職指導により、ほとんどの学生が学校推薦による内定を獲得しています。

私立幼稚園・保育所からの

求人件数 **2,584** 件 求人倍率 **25.5** 倍

就職率 **100%**

#### 幼稚園教諭免許状と保育士資格をWで取得

年々増える認定こども園への就職のためにも幼稚園教諭免許状と保育士資格の同時取得は必須です。保育科では卒業時に免許・資格を同時に取得できる「実習をコアにしたキャリア形成カリキュラム」を編成しています。

#### 学びの質を向上させるカリキュラム

実習をコアにしたキャリア形成カリキュラムによって、次代をつくる保育のエキスパートを育成しています。

### 総合文化学科

充実の専門教育で  
コンピテンシー(仕事力)を伸ばします。

#### ●ランチ紹介

デザイン・インテリア

ファッション

ITコミュニケーション

フード・調理

製菓

幼児栄養

図書館司書

文芸・編集

養護・保健

観光・ホテル

#### 好奇心をくすぐる10のランチ 高い専門性と幅広い教養を保証する履修システム

学生にとって学びの自由度が高い履修システムで高い専門性と幅広い教養を学べます。

興味や目的に応じて10のランチ(コース)から、自分の専門とするランチを1つ選んで必修とします。

一方で必修科目以外の科目については、他のランチの科目や聖徳大学(文学部、心理・福祉学部)の科目を自由に選択履修できるほか、実社会で必要とされる免許・資格取得に必要な科目も卒業に必要な単位に参入できるようになっているので、目標の実現に取り組めます。